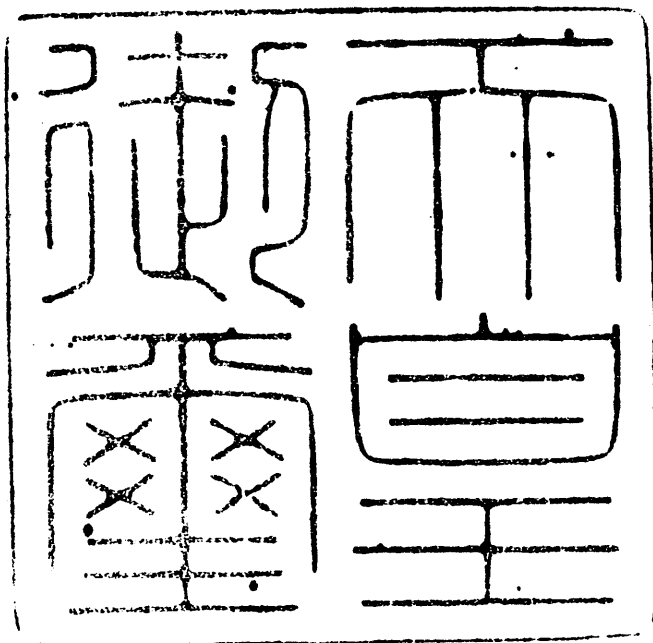


法律第六十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル重要物資
管理營團法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

裕仁



昭和十七年二月二十三日

内閣總理大臣 東條英機
厚生大臣 小泉親彦
大藏大臣 賀屋興宣
商工大臣 岸信介
内務大臣 湯澤三平男

法律第六十九號

重要物資管理營業法

第一章 總則

第一條 重要物資管理營業ハ戰時ニ際シ重要物資ノ貯藏ヲ確保及
増強シ故ニ貯藏重要物資ノ利用ヲ有效且適正ナラシムルコトヲ
目的トス

重要物資管理營業ハ法人トス

本法ノ重要物資ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 重要物資管理營業ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

重要物資管理營業ハ政府ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所
ヲ設置スルコトヲ得

PP
閣

第三條 重要物資管理營團ノ資本金ハ二千萬圓トス

第四條 政府ハ二千萬圓ヲ重要物資管理營團ニ出資スベシ

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シ

テ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 重要物資管理營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 資本金額及資産ニ關スル事項

五 役員ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 會計ニ關スル事項

八 公告ノ方法

定款ハ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第六條 重要物資管理營團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七條 重要物資管理營團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ
北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ重要物資管理營團ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事

關

情ニ基キ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 重要物資管理機關ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 重要物資管理機關ニ非ザル者ハ重要物資管理機關又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十條 民法第四十四條、第五十條、第五十四條及第五十七條並ニ非訟事件手続法第三十五條第一項ノ規定ハ重要物資管理機關ニ之ヲ準用ス

第二章 役員

第十一條 重要物資管理機關ニ理事長副理事長各一人、理事三人

以上及職事二人以上ヲ置ク

理事長ハ重要物資管理機關ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ重要物資管理機關ヲ代表シ理

事長ヲ輔佐シテ重要物資管理機關ノ業務ヲ掌理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員

ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ重要物資管理機關ヲ代表シ理事長

及副理事長ヲ輔佐シテ重要物資管理機關ノ業務ヲ掌理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長及副理事長共ニ事故アルト

キハ其ノ職務ヲ代理シ理事長及副理事長共ニ缺員ノトキハ其ノ

職務ヲ行フ

監事ハ重要物資管理機關ノ業務ヲ監督ス

第十二條 理事長、副理事長、理事及監事ハ政府之ヲ命ズ

第十三條 理事長、副理事長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十四條 理事長、副理事長及理事ハ他ノ職業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 重要物資管理機關ニ評議員若干人ヲ置キ政府之ヲ命ズ評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見を述べルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第三章 業務

第十六條 重要物資管理機關ハ左ノ業務ヲ行フ

- 一 重要物資ノ保有
 - 二 重要物資ノ買入、輸入及賣渡
 - 三 其ノ他重要物資管理機關ノ目的達成上必要ナル事業
- 重要物資管理機關ハ前項第一號及第二號ノ業務ニ付テハ政府ノ定ムル計畫ニ依リテ之ヲ行フベシ

重要物資管理機關第一項第三號ノ業務ヲ行ハントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 重要物資管理機關必要アリト認ムルトキハ業務ニ關シ

重要物資ヲ所有又ハ保管スル者ニ對シ其ノ所有又ハ保管ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

重要物資管理營團必要アリト認ムルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ役員又ハ使用人ヲシテ前項ニ據グル者ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

重要物資管理營團前項ノ規定ニ依リ役員又ハ使用人ヲシテ検査セシムル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ認可アリタルコトヲ證スル書面及其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十八條 重要物資管理營團ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ物資ノ生産、輸出、輸入、販賣又ハ保管ヲ業トスル者ニ對シ重要物資管理營團ノ所有スル重要物資ノ保管ヲ爲サシムル

コトヲ得

前項ノ場合ニ於テ保管ニ要シタル費用ハ重要物資管理營團ノ負擔トス

第四章 會計

第十九條 重要物資管理營團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄トス

第二十條 重要物資管理營團ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

第五章 監督

第二十一條 重要物資管理營團ハ政府之ヲ監督ス

PP
開

第二十二條 重要物資管理機關ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ
剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十三條 重要物資管理機關ハ業務開始ノ際業務ノ方法ヲ定メ
政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十四條 政府ハ重要物資管理機關ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ
關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ
發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 役員ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シ又ハ公益
ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第六章 罰則

第二十六條 重要物資管理機關ノ理事長、副理事長、理事、監事

又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束
シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ
不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ
懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收スルシ其ノ全部又
ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ罰額ヲ過徴ス

第二十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束
シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除
スルコトヲ得

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處

罰
罰

即 附

ス

一 第十七條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十七條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 正當ノ事由ナクシテ第十八條第一項ノ規定ニ依ル保管ヲ爲サザル者

第二十九條 人又ハ法人ノ代理人、店主、家族、同居者、雇人其
ノ他ノ従業者ガ比ノ人又ハ法人ノ業務ニ關シ前條第一號又ハ第
三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ人又ハ法人ハ自己ノ指揮
ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十條 第二十八條第一號及第三號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナル
トキハ即事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未
成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但
シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此
ノ限ニ在ラズ

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ重要物各官理發團ノ理事長、副理
事長、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ政府ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受
ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十六條第二項ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル計畫ニ依ラズ

シテ業務ヲ行ヒタルトキ

四 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ重要物管理機關ノ理事長、副理

事長、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコト

ヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第二十條ノ規定ニ違反シ簿類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書

類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルト

キ

第三十三條 第九條ノ規定ニ違反シ重要物管理機關又ハ之ニ類

似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

附 則

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 政府ハ設立委員ヲ命ジ重要物管理機關ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第三十六條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第三十七條 定款ニ付政府ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第三十八條 出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯

ナク其ノ事務ヲ重要物管理機關理事長ニ引續グベシ

理事長前項ノ事務ノ引續ヲ受ケタルトキハ理事長、副理事長、

理事及監事ノ全員ハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

重要物資管理機關ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第三十九條 登録税法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「産業設備登録」ノ下ニ「重要物資管理登録」ヲ、「産業設備登録法」ノ下ニ「重要物資管理登録法」ヲ加フ

第四十條 印紙税法中左ノ通改正ス

第五條第六號ノ五ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ六 重要物資管理登録ノ重要物資管理登録法第十六條第一項第一號及第一號ノ業條ニ關スル證書時効